

城南雨水滞水池とは？

下水の処理には、雨水と汚水と一緒に処理する合流式下水道と、雨水と汚水を別々に処理する分流式下水道があります。城南水処理施設は合流式下水道で、雨水と汚水が一緒になって（合流して）処理施設に入ってきます。近年“ゲリラ豪雨”という言葉をよく耳にしますが、短時間で大量の雨が合流式下水道の地域に降ると、その大量の雨水が汚水と共に城南水処理施設に流れ込み、施設の処理能力を超えてしまう場合があります。その時、力を発揮するのが城南雨水滞水池です。一般的な2.5mプールの約60杯分（15,000m³）の容量があり、大量の雨水が流れ込んできた時、一時的に雨水と汚水を溜めておくことができます。

城南雨水滞水池の内部写真



（所在地 高崎市和田多中町550番地）



滞水池に溜まった雨水と汚水はどうするの？



城南雨水滞水池に溜まった雨水と汚水は、晴天時に再び下水処理施設へ戻しています。未処理放流による河川の水質悪化を防ぎ、また、衛生環境の向上を図っています。

●問い合わせ先 下水道局施設課（電話 027-321-1289）

下水道は正しく使いましょう

下水道が利用できるようになって、何でも流していいということではありません。台所の流しから直接使用済みの油や野菜くずを流したり、トイレにトイレットペーパー以外のものを流すと、下水道管を汚し、詰まりや悪臭の原因になります。また、有害な薬品や、揮発性の高いガソリン、シンナー、石油などの危険物は、下水道管や下水処理施設の処理機能に悪影響を及ぼすだけでなく、下水道管の中で爆発する危険もありますので、絶対に下水道へ流してはいけません。

自然や生活環境を守るため、一人ひとりが十分に注意して下水道を正しく使いましょう。

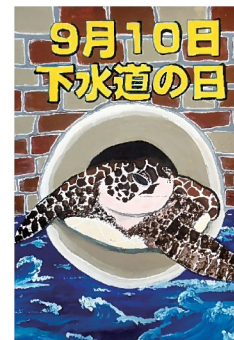


●問い合わせ先 下水道局維持管理課（電話 027-321-1290）

第59回下水道いろいろコンクールで入賞

昨年（令和元年）度の高崎市下水道の日ポスター展で最優秀賞を受賞した長野小学校の武井勇磨さんの作品が、（公社）日本下水道協会と（株）日本水道新聞社主催の第59回「下水道いろいろコンクール」で入賞しました。小学校高学年の部で、応募総数3,742点の中から厳正なる審査によって選ばれた入賞作品8点の中の一つに選ばれました。おめでとうございます！

●問い合わせ先 下水道局整備課（電話 027-321-1288）



水源かん養林内で記念植樹

高崎水道工事業協同組合（宮野守一理事長）の設立50周年の記念事業として、令和2年6月に、倉淵町川浦の高芝地区にある水源かん養林内で植樹が行われました。

この植樹は、同組合より大山桜の苗木（28本）の寄附を受け実施したもので、当日は宮野理事長のほか、新井上下水道事業管理者、福島水道局長により記念植樹が行われました。

また、同組合へ市の水源環境の保全に大きく寄与したことに対し、感謝状を贈呈しました。



植樹の様子（左から新井管理者、宮野理事長、福島水道局長）

●問い合わせ先 水道局経営企画課（電話 027-321-1282）

水道水質に関する新しい基準について

水道水における有機フッ素化合物の一つであるPFOS（ピーフォス）、PFOA（ピーフォア）について、令和2年4月1日より要検討項目から水質管理目標設定項目に変更され、PFOS及びPFOAの合計値で、1リットル当たり50ナノグラム※（50ng/L）以下とする暫定目標値が設定されました。有機フッ素化合物（PFOS、PFOA）とは、撥水剤や泡消火薬剤等で使用されており、環境中において分解されにくく、PFOSについては、平成22年に国内での使用と製造が禁止され、PFOAについても現在、国内での使用と製造を禁止する動きがあります。

高崎市水道局では、国から示された検査方法により原水における検査を行い、PFOS及びPFOAの合計値が暫定目標値を下回っていることを確認しています。

水質管理目標設定項目は水質検査項目とは異なり、目標値を超えたとしても直ちに飲用不可となる項目ではありませんが、今後も継続して検査を行い、安全な水道水の監視に努めていきます。

※ナノグラム（ng）は1億分の1グラムを示す単位



●問い合わせ先 水道局浄水課（電話 027-321-1286）